

この問題は世界的に影響を及ぼして
中国経済以外にはアセアン(東南アジア各国)でも株価下落の方向へ
走りました。

しかし、一方でタイ株に関心ある方は、
これをチャンスとタイ・パーツに転換して
先に動き出している方もおられるようです。

もちろん様々なリスクを考慮しつつ、勉強してからが前提ですが。
少し様子を見ながら、タイ・パーツへ交換するのが良いと思います。

パーツは長い目で見たら高くなると感じます。
食料危機・自動車生産国家・水資源が豊富。
などなど世界的に何か発生したときに資源を持っていると
やはり強いです。
(唯一石油資源が少ないのがデメリットですが・・・。)

さてそれでは第19号に入ります。どうぞ宜しくお願い致します。

(こちらのメールマガジンは転送可となっています。
御友人や御知り合いでタイに関心ある方にはどんどんお伝え下さい。)

□□ No1 タイ株初心者編です ■■

今回はタイ株の初心者向けに対しての書籍が発売される告知でございます。

8月12日日曜日アマゾン・ドット・コムにて
優先的に、
「タイ株完全マニュアル・口座開設編」改訂版を
出版することになりました。
出版元は「パンローリング社」になります。
書籍の価格は少し高めの、税込1,890円になりました。

この本では初版本をご購入いただいた方には素敵なプレゼントがございます。

<http://thaikabu.net/index02.php?choice=amazon>
(注意！8月12日(日曜限定)でございます！)

今回はあらかじめ注意点が三つございます。

- 1・書籍の中身は「タイ株証券口座をこれから開設しようと考えている方対象」
アマゾンキャンペーンの資料も同じく初心者を対象にしているものが多いです。

2・ホームページではまだ完成していない部分がございますので、ご了承ください。

3・万が一送信が込み合う場合は購入だけ、12日に。申し込みは後日でも構いません。

その他にご不明な点ございましたら、
直接 abe@thaikabu.net までメールをいただければ幸いです。
(@は半角に直していただきます。)

実施予定日は明日の日曜日 8月12日(日)を予定しております。

8月12日(日)一日限りにアマゾンからお申し込みいただければ無料レポートを受け取ることが可能でございます。(8月下旬にお届けいたします。)

以上となります。

パーツも下がって、
株価も下がってきてタイ株式にチャレンジするには絶好の機会かもしれません。

まだまだ割安株が多いので。
(すぐに儲かるの?とまでは言えませんが・・・。)

次号も面白い情報を出来るだけ伝えていけるよう頑張ります。

□□ No2 タイ株上級者編です ■■
過去のタイ株関連メルマガであまり触れられてなかったコーナーを作りました。

●● 019 SPCです。○○
タイでの消費財大手 第1位の会社です。

サハ・パタナビブン(SPC)は
消費財大手サハ・グループの筆頭企業となります。
こちらのサハ・グループは関係子会社、提携会社含め12分野300社、
食品、トイレタリー、生活用品、衣料アパレル、スポーツ用品
まで幅広く手掛けている財閥系です。

SPCは1978年にSETへ上場しました。
複数の日系のメーカーと連携が深く、LION、JANOME、ワコール、グンゼ、ビッグエコー、
UCC、ファンケル、ロッテ、理髪店のQBハウス等との多くの日系企業との間で
合弁事業、提携販売などを行っています。
コンビニエンス・ストアで108ショップも扱っています。

同じグループ会社の上場企業に
SPI (サハ・インターナショナルトレーディング)、
ICC (ICCインターナショナル) があります。
毎年大きな販売展示会をシリキット展示場にて開催されていることでも有名な企業です。

消費財大手の2006年決算内容では
消費財大手サハ・パタナピブン(SPC)は
2006年の
売上が05年比16.0%増の157億1100万バーツ。
純利益では05年比マイナス10.5%減の3億6900万バーツでした。

近年より、現在までタイの衣料・消費財関連は
中国やベトナムなどから安価な製品が流入しており、価格競争が激化しています。
そのため、高付加価値製品へのシフトや新商品開発を求められる
産業分野になっています。

サハ・グループの各社でも同じく有名メーカーの製品をOEM生産していたりしますが、
急激なパーツ高などによってこのセクターでの輸出事業には
深刻な影響を与えているようです。

管理人のコメント
サハはタイで非常に有名です。
こちらの即売展示会は凄い勢いです。
タイの人の購買意欲の凄まじさを体感できます。

皆さん帰るときはサンタクロースように
ずるずると買ったモノを引きずって帰っています。
(ジム・トンプソンセールでも同じです。)

良いニュース悪いニュースを二つ。

2007年6月バンコクポストでは、
タイ消費財大手サハ・パタナピブン・グループの
ブンヤシット・チョークワタナー会長は2007年6月に、
2007年のグループ全体での売上が06年を5%下回るという見通しを示しています。
前年比減収は1942年の創業以来初になりそうです。

2006 昨年の売上高はグループ全体で1300億バーツでした。
衣料品関係が06年比で20%~30%の減収が予想されています。
パーツ高で輸出が苦しい状況であるのと、
国内の需要が低いままであることが要因としています。

2007年7月サハ・パタナピブン・グループが例年開催している

「サハ・グループ輸出貿易展示会」で、2007年の来場者が過去最高の78万人に達しました。当初予測は30万人でした。

同グループのブンヤシット会長は、例年より宣伝・広告を強化したことで来場者が増えたと分析。景気減速の影響はなかったとしています。

特に、仏カジュアルブランド「ラコステ」、下着「ワコール」、米紳士服ブランド「アロー」の販売が好調でした。

こちらの展示会は6月29日～7月1日に開催。

過去10回の平均来場者数は30万人、売上高は1億バーツでした。

タイの内需は良い傾向へ進みそうですが、パーツ高は現時点ではこの業界では悪い影響を与えています。

□□ No 3 タイ国内ニュース編です ■■

タイ警察庁犯罪制圧司令部が規律違反を犯した警官に懲罰のためサンリオの人気キャラクター「ハローキティ」の模造ワッペンを着用させていたことが明らかになり著作権侵害の疑いが浮上している。

ワッペン作戦の生みの親であるウィーラパット警察少将によると「ごみのポイ捨てや駐車違反といった軽い規律違反の懲罰としてピンク色のかわいいワッペンをつけさせ恥ずかしがらせるのが目的」として同司令部所属の警官およそ1500人を対象に導入した。

しかしタイの英字紙バンコクポストの報道をきっかけに国外メディアの取材が殺到してしまい、日系の新聞社などが著作権侵害の可能性を指摘。

日本のメディアの取材攻勢を受けた同司令部は「軽い冗談のつもりだった」としてワッペンをタイ製漫画のキャラクターに変更する意向だ。

タイ警察は6日、規律違反を犯した警官に対し、サンリオのキャラクター「ハローキティ」をあしらった腕章を着用させる懲戒制度を導入した。しかし、取材で著作権の問題を指摘されたため、同部は7日夜、ハローキティの使用を取りやめることを決定。わずか2日の寿命の間、腕章着用の処分を適用された警官はいなかった。<NEWSCLIP社よりご提供>です。

2006年の12月外資規制並みに今回も素早く撤回しました。

このあたりの動きは流石です。
外資の突込みが入ると即座に撤回へ動きました。

8月に入ってから
タイ株式市場は下がり続けていますね。

8月10日金曜日
タイ証券取引所 SET Index は 804.84 ポイント引けました。
—6.99 ポイント、—0.86%の下落でした。
10日の最高値で 804.84 ポイント。一時期 789.93 ポイントまで
下げましたが、午後に戻した形です。

管理人のコメント

こちらよりもタイ・パーツの為替がようやく反転したことに注目です。
「いつパーツ安に動きますか??」
と言うご質問がたいへん多かったので、
ようやくと言う感じです。

バンコク銀行の8月10日でのタイ国内レートです。

Buying レート 28.23
Selling レート 29.09 でした。

タイのパーツを買いたい円保有者は10万円持って行ってパーツ買くと
28,230 パーツ受け取れます。
7月24日と1070 パーツ違いますね。
100万円なら
282,300 パーツでした。
100万円単位での両替なら数万円違いますね。
<ブログより引用>

□□ No 4 追伸です ■■

もう一つタイのニュースです。

タイ商務省は8月9日、タイ立法議会(軍政下の国会)審議から
外国人事業法改正案について、現スラユット政権での
成立は困難になったという見方を示しました。

「修正もしくは再提出には時間が足りない」としてはいますが
実際には立法議会で外資規制強化論が予想外に盛り上がり

外資締め付け案を提案したはずの政府自身が及び腰になったようです。

日本など諸外国の反発を買う形になった外資規制法の改正案は意外な経緯で廃案となる公算が強まっています。

この問題古くからある
出資比率問題、議決権ベース問題と
分けて考えないといけません。
なかなかタイにいないと
分からないので、またファイルでまとめようと思います。
次号間に合えば解説いたします。

簡単に言うところの改正法案は
外資締め付けとして日本、米国、EUなどが強い反発を表明していました。
(もともとはテマセク・コーポレーションなどの
シンガポール向けが発端だったのですが・・・)

これで廃案になった場合なのですが、
外国資本が来やすい状況が復活します。

いままで、マレーシア、ベトナムなどを検討していた企業が
再びタイでの投資・企業進出を始める可能性もあります。

ただし、製造部品などの輸出入は今後関税がゼロの方向へ
進むために、物流コストなどの計算で、
ローカルリスク(タイ国の政治リスク)が低くならない場合は
他国へ流れてしまう可能性も残されていますので
そのあたりも考えないといけません。

しかし好材料がそろってきたのは事実です。
面白くなりそうなタイの経済です。

最後までお読みいただき、ありがとうございます！

アマゾンキャンペーン申し込みページはこちらになります。

<http://thaikabu.net/index02.php?choice=amazon>
(注意！8月12日(日曜限定)でございます！)

阿部

●注意事項です

Issued by Toshiyuki Abe in 902/112 SVcity Tower1 Rama3Rd Yannawa Bangkok 10120
Under a 2 Research Company date, I Toshiyuki Abe wrote this overview research and comment in this report. As a result investors should be aware that the report & comment may conflict of interest that could affect the objectivity of this report.

Investor should consider this report as only a single factor in making their investment decision.

